雑誌における
地下街の表され方とイメージ

4年　廣木みのり

Ⅰ はじめに

１．背景・目的

名古屋市では地下鉄の建設に伴い1957年に初めて地下街が開業した。その後増設が続き、現在では名古屋駅地区と栄地区を中心に約17万平方メートルの規模で広がっている。

地下街に関する研究は戸所（1979）や山澤（1986）などがあり、地下街には女性向けの服飾関係の店舗や飲食店が多いことなどが明らかになっている。

しかし、それらにおいて議論されているのは地下街の成り立ちや構造についてであり、人々が地下街に対して持つイメージを取り上げている研究はあまり見られない。

一方、商業地域を対象とし、雑誌の内容を資料に用いた研究として成瀬（1993）や木田（2008）があげられる。これらの研究では、雑誌内の記述から街のイメージを示している。
またテキスト分析を行った（岩森2021）では、授業評価アンケートの記述回答から評価の高い要素の分類やキーワードが明らかにしている。

本研究の目的

- 地下街の雑誌における文章から
  地下街の表され方の特徴を示す
- リニューアル背後の内容を分析し
  取り上げられ方の変化を明らかにする

2．対象地概要

表１　名古屋市地下街の概要

地下街名称	設置年	延べ面積（㎡）	店舗面積（㎡）
名古屋駅地区			
サンロード（名古屋地下街）	1957年	11,384	4,817
キタチカ	1957年	708	327
メイチカ（名駅地下街）	1957年	2,993	1,385
ダイナード	1963年	933	261
ミヤコ地下街	1963年	3,646	1,048
近鉄パッセ（名古屋近鉄ビル地下街）	1966年	68	59
ユニモール	1970年	27,364	6,183
エスカ	1971年	29,180	6,123
ゲートウォーク（旧テルミナ）（タカシマヤ南中地下階）	1976年	7,228	1,804
栄地区			
栄森の地下街	1957年	13,048	4,680
サカエチカ	1969年	13,887	5,749
セントラルパーク	1978年	56,624	10,369

（名古屋市ウェブページより作成）

名古屋市のウェブページにおいて地下街とされているもののうち、名古屋駅地区及び栄地区にあるものを対象とする

名古屋市では名古屋駅地区と栄地区を中心に、全国に先駆けて本格的に地下街が発展してきた

名古屋駅地区の地下街

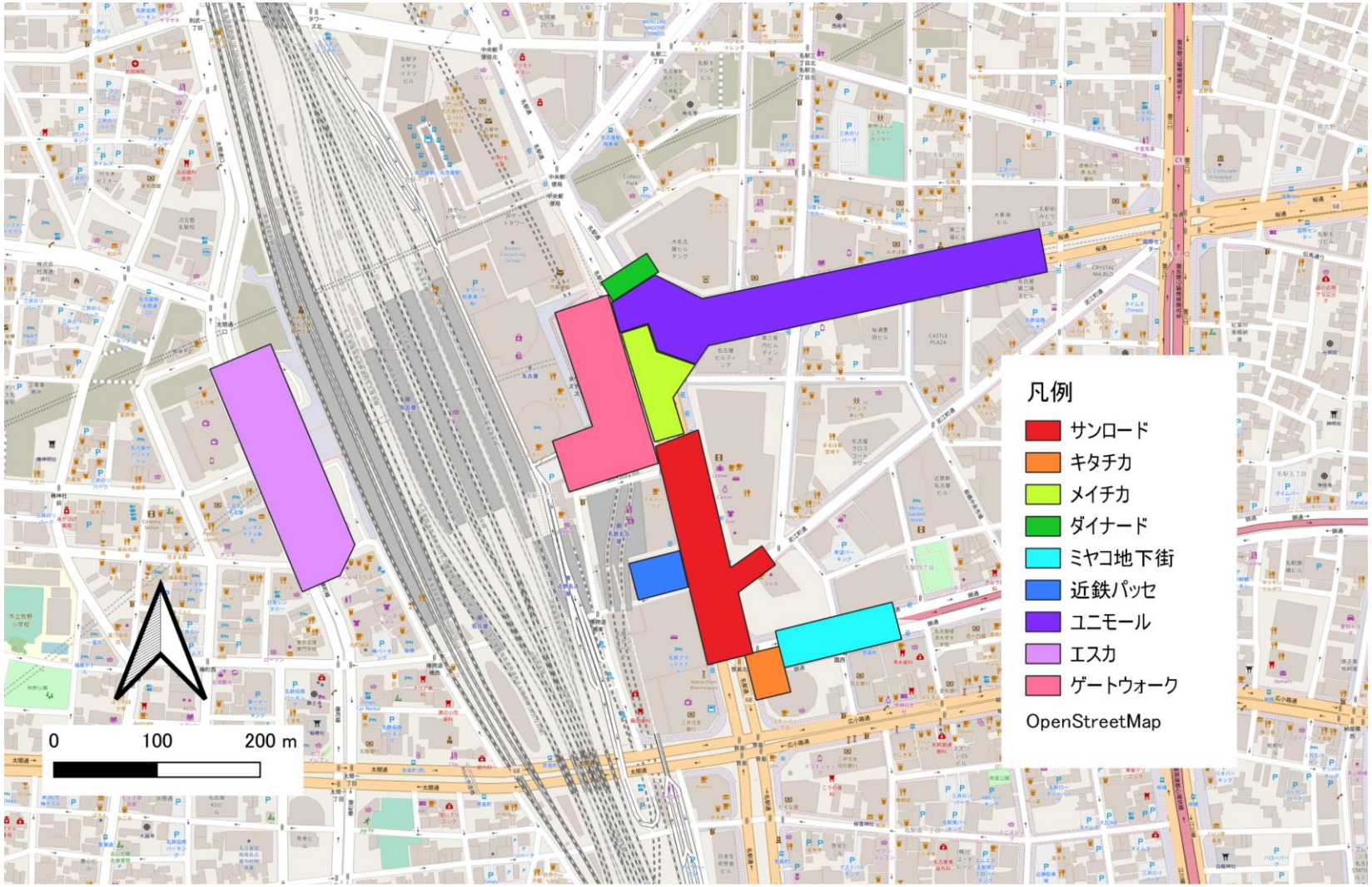


図１　名古屋駅地区地下街図

（名古屋市ウェブページ，Open Street Mapより作成）

栄地区の地下街

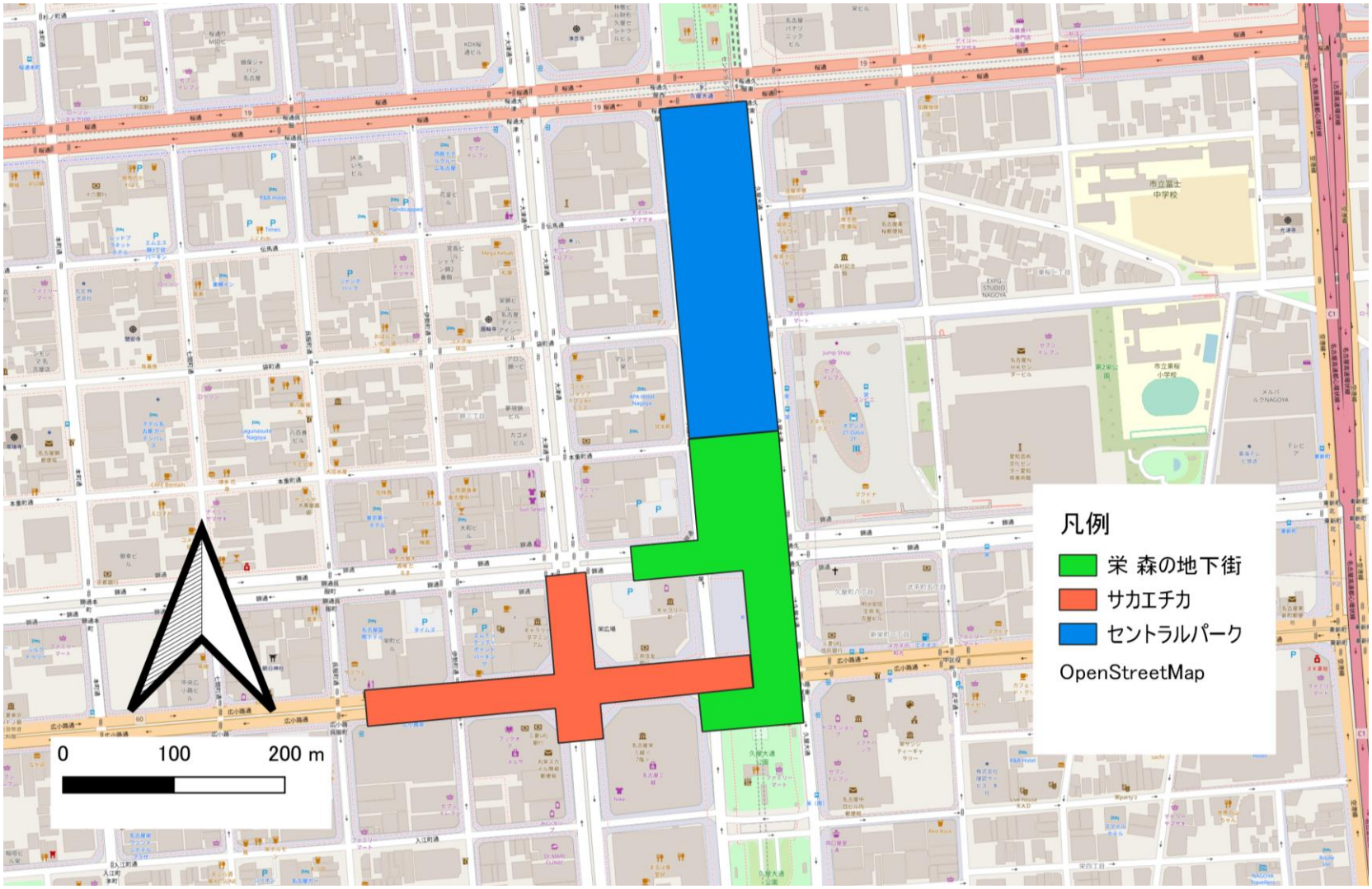


図２　栄地区地下街図

（名古屋市ウェブページ，Open Street Mapより作成）

Ⅱ 方法・資料

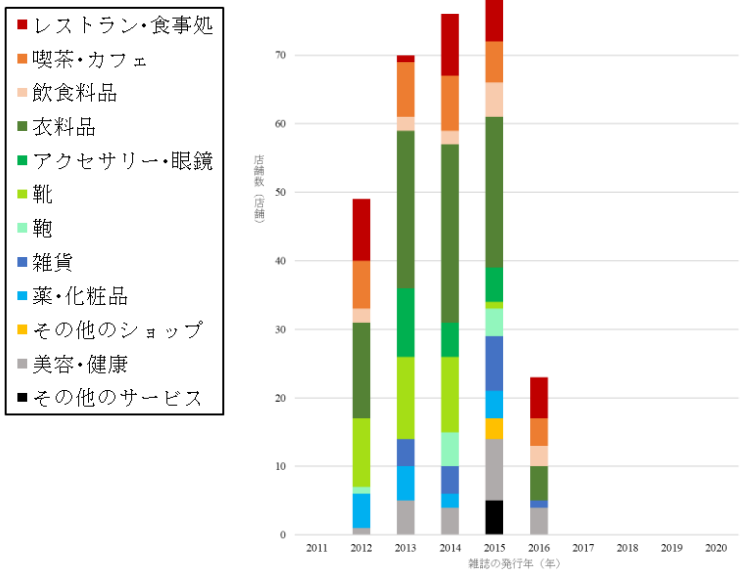
１．方法

使用雑誌は名古屋市を主な記事の内容の対象地としている『Cheek』、『KELLy』、『東海ウォーカー』、『まっぷる』、『るるぶ』の5つで、複数の地下街でリニューアル等のニュースになる出来事があった2011年から2020年に発行されたものを用いる。

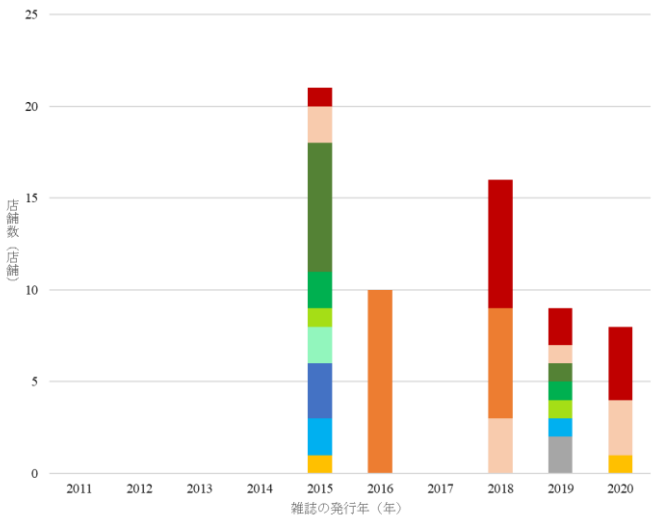
雑誌から抽出した文章はフリーソフト「KH Coder」を使用し、階層的クラスター分析及び共起ネットワークの描写を行った。

2．使用資料

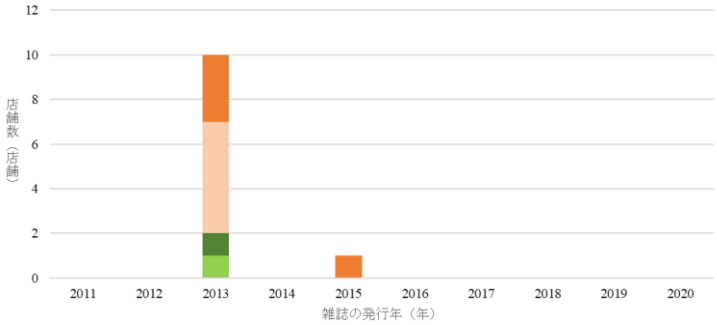
定期刊行雑誌



『Cheek』



『KELLy』

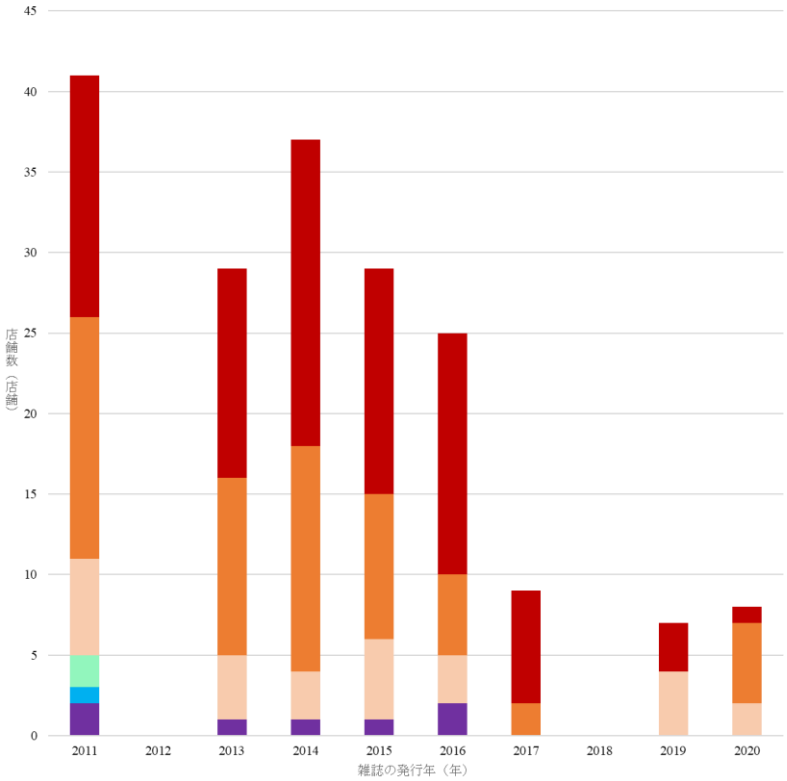


『東海ウォーカー』

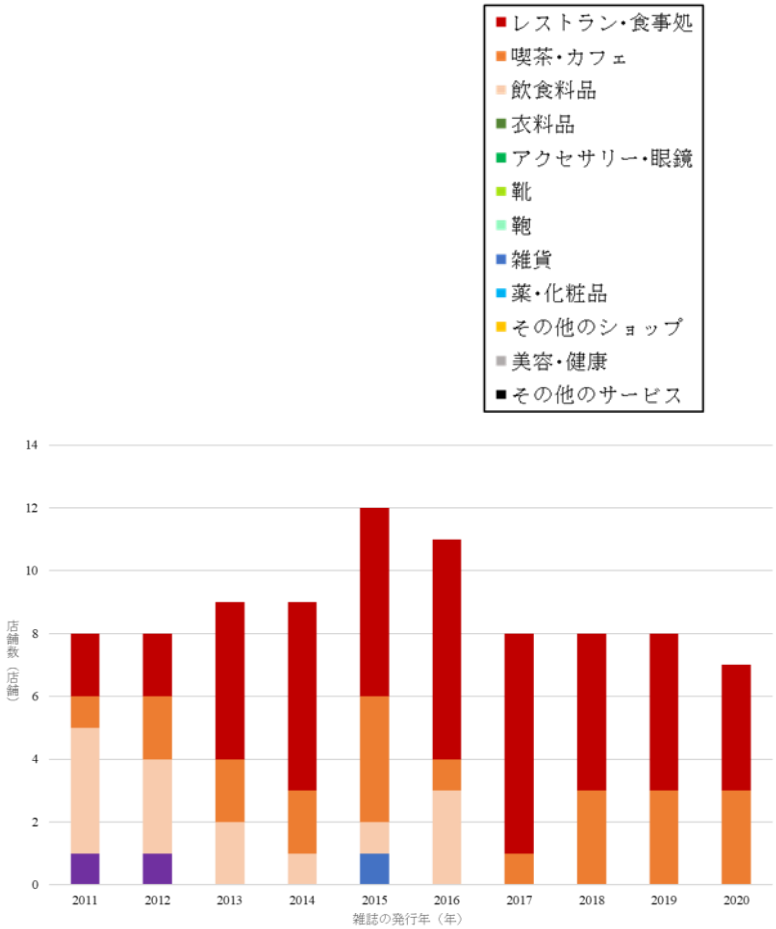
図３　定期刊行雑誌のジャンル別掲載店舗の変遷

（2011年から2020年発行の『Cheek』，『KELLy』，『東海ウォーカー』より作成）

不定期刊行雑誌



『るるぶ』



『まっぷる』

図４　不定期刊行雑誌のジャンル別掲載店舗の変遷

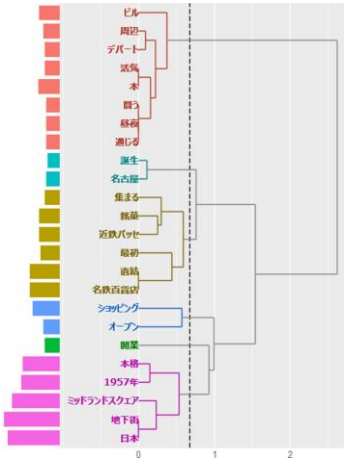
（2011年から2020年発行の『まっぷる』，『るるぶ』より作成）

タウン情報誌である『Cheek』と『KELLy』について、
『Cheek』はファッション関連の店舗の掲載数が多く、
『KELLy』はグルメ関連の店舗が多い。
また『東海ウォーカー』は地下街の特集がほとんど見られない。

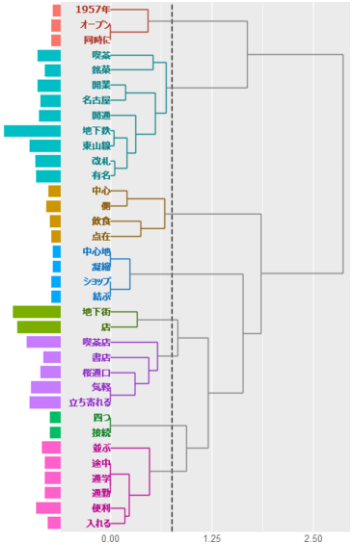
旅行情報誌である『まっぷる』と『るるぶ』については、
飲食関連の店舗が比較的多く掲載されており
掲載店舗数の変化は少ない。

Ⅲ 雑誌から見る地下街の特徴

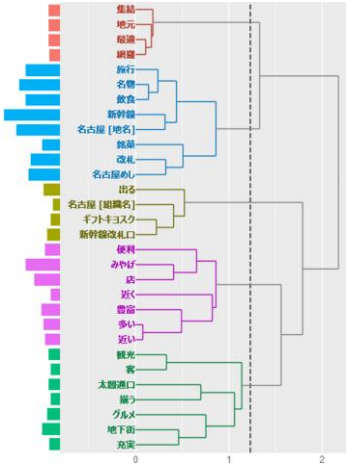
名古屋駅地区の地下街別クラスター分析結果



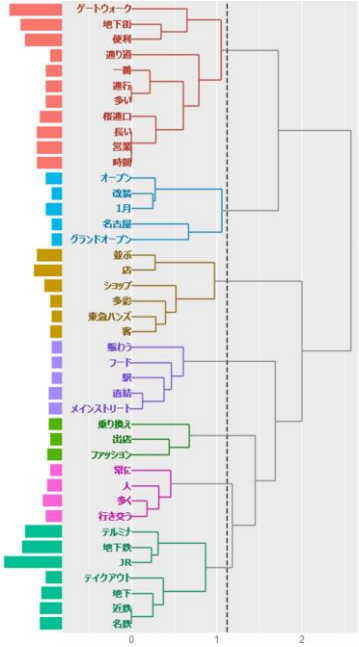
サンロード



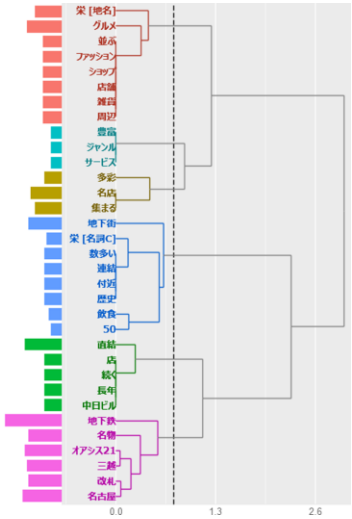
メイチカ



エスカ



ゲートウォーク

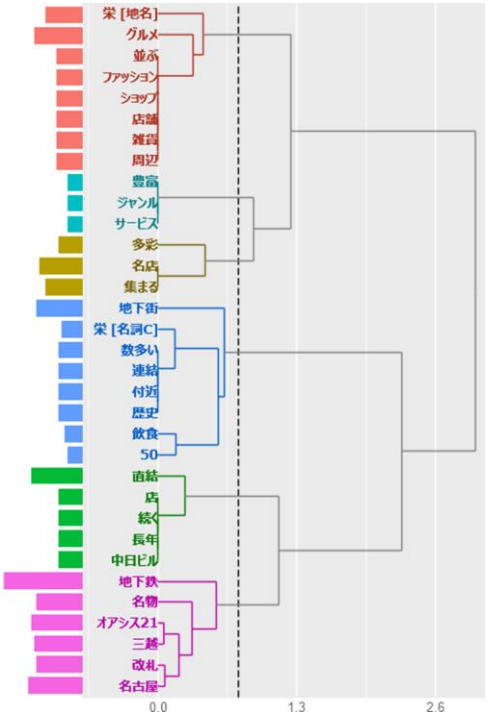


ユニモール

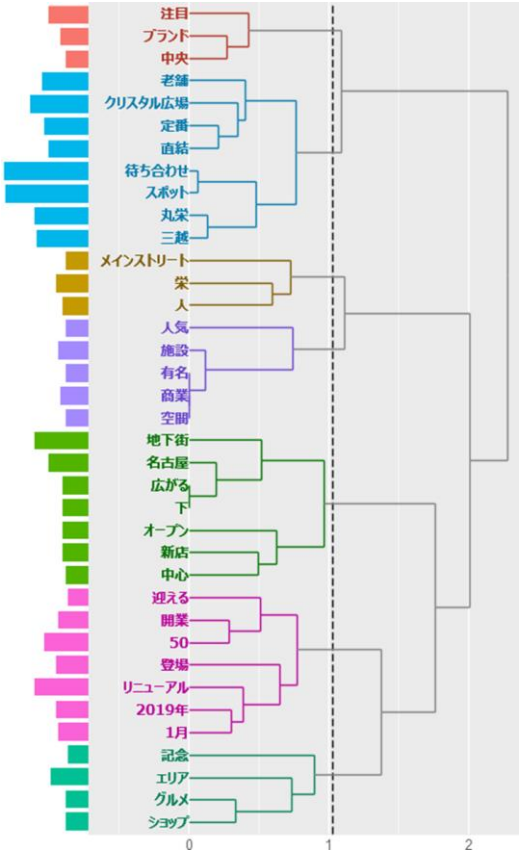
図５　名古屋駅地区における地下街別雑誌内記述のクラスター分析結果

（2011年から2020年発行の『Cheek』，『KELLy』，『東海ウォーカー』，『まっぷる』，『るるぶ』より作成）

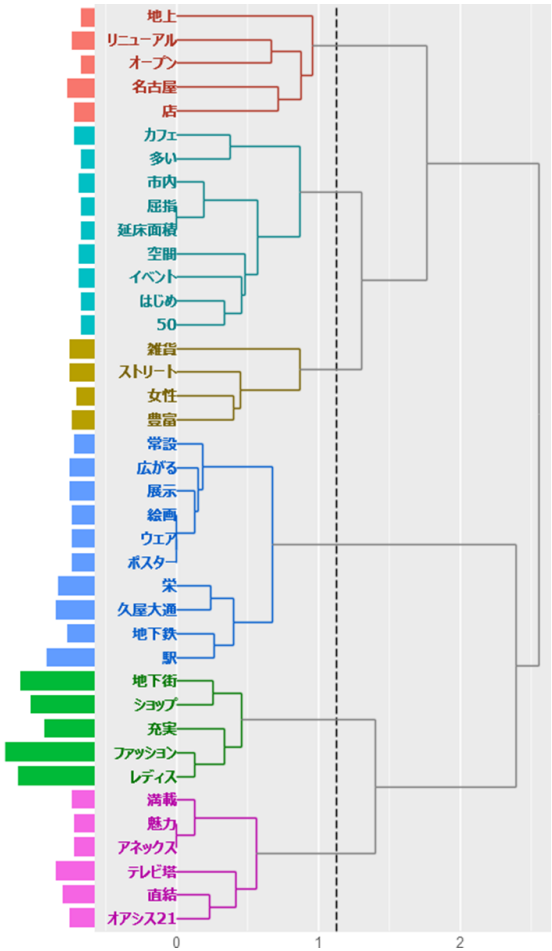
栄地区の地下街別クラスター分析結果



栄 森の地下街



サカエチカ



セントラルパーク

図６　栄地区における地下街別雑誌内記述のクラスター分析結果

（2011年から2020年発行の『Cheek』，『KELLy』，『東海ウォーカー』，『まっぷる』，『るるぶ』より作成）

地下街の雑誌への取り上げられ方の特徴

・駅周辺にある便利な通路または商業地として紹介されている

・地下街は複雑であるという印象を与えている

Ⅳ 雑誌における地下街のリニューアルの表され方

リニューアルが確認された地下街について雑誌掲載内容において、「リニューアル」の後は見られる年をリニューアル中、その前をリニューアル前、その後をリニューアル後として設定し、それらの共起ネットワーク図を作成した

表２　地下街のリニューアルに関する年表

地下街名	リニューアル オープンした年	「リニューアル」の 語が出現した年
サンロード	なし	なし
メイチカ	なし	なし
エスカ	なし	なし
ユニモール	2014年 9月 2015年 4月 10月	2014年、2015年、 2016年、2017年、2018年
ゲートウォーク	2015年 11月	2015年
森の地下街	なし	なし
サカエチカ	2019年 11月	2018年、2019年、 2020年
セントラルパーク	2014年 9・10月 2015年 秋 2020年 11月	2014年、2015年、 2020年

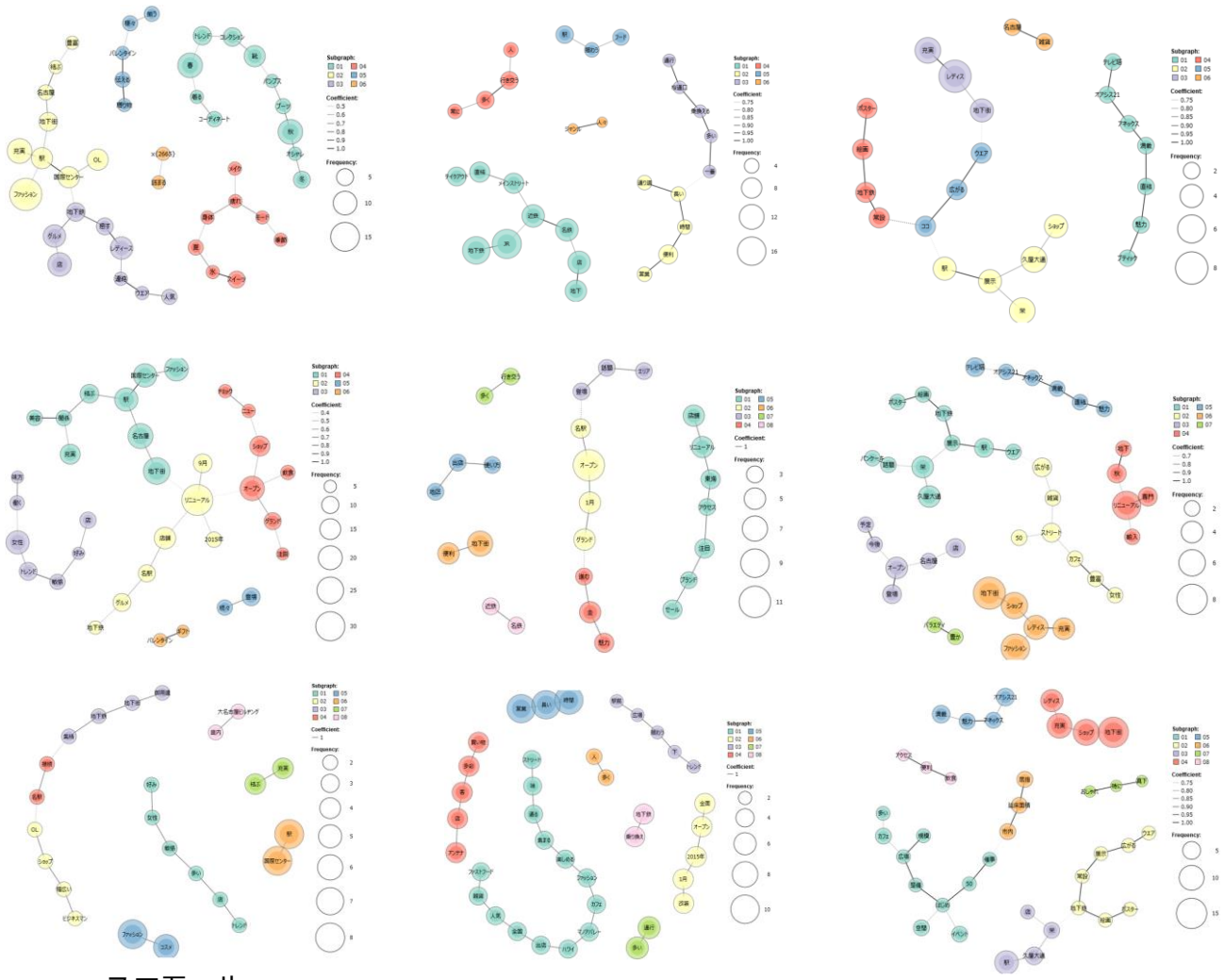
（各地下街ウェブページ，各使用雑誌により作成）

地下街別の共起ネットワーク図

前

中

後



ユニモール　　ゲートウォーク　　セントラルパーク

図７　地下街別リニューアル前・中・後の共起ネットワーク図

（2011年から2020年発行の『Cheek』，『KELLy』，『東海ウォーカー』，『まっぷる』，『るるぶ』より作成）

分析結果から考えられること

・リニューアル中に取り上げられる内容は
商業地としての性格が強い

・雑誌における表され方に対してリニューアルが
与える影響について、名称の変化が特に大きい

・前後の変化が少なく、地下街のイメージは
ある程度固定されている

Ⅴ おわりに

雑誌に表される地下街の特徴

店舗の紹介等の商業地的要素や、ビルや改札を結ぶ地下通路としての要素が大きく取り上げられている

地下街のリニューアルについての表され方

掲載内容は店舗情報等の商業地的な要素が強いが、前後の変化が少なく地下街に対するイメージの固定化が考えられた

文献

iタウンページ https://itp.ne.jp/（最終閲覧日：2022年1月16日）

岩森三千代 2020．KH Coderを活用した自由記述による授業評価アンケートの解析と客観化の試み．新潟青陵大学短期大学部研究報告 50：95-103.

木田和海 2008．タウン情報誌による京都の「街」の表象　－都市空間イメージの地理情報の分析．立命館地理学 20：57-70.

サカエチカ｜名古屋 栄の地下街 https://sakaechika.com/（最終閲覧日：2022年1月16日）

サカエチカマチ株式会社 https://sakaechikamachi.co.jp/（最終閲覧日：2022年1月16日）

新修名古屋市史編集委員会 1998．『新修 名古屋市史 第七巻』名古屋市

セントラルパーク – Centralpark https://www.centralpark.co.jp/（最終閲覧日：2022年1月16日）

戸所隆 1979．名古屋における地下街の形成 都心立体化の一形態として．人文地理 31，3，193-213.

名古屋市住宅都市局都市計画部街路計画課 2006．『名古屋の地下空間』名古屋市.

成瀬厚 1993．商品としての街, 代官山．人文地理 45，6，618-633.

発展する地下を支えます．　株式会社名古屋交通開発機構 https://www.chikashin.com/（最終閲覧日：2022年1月16日）

メディア・リサーチ・センター株式会社 2019．『雑誌新聞総かたろぐ 2019年版』メディア・リサーチ・センター株式会社

山澤正 1986．横浜駅地区における地下空間の地理学的研究．東北地理 38，4，292-305.